

卒業の言葉

みなさんにとって「荒浜中学校」とは何でしょうか。僕にとって「荒浜中学校」とは、この3年間でみんなとの歩み、思い出を思い出させてくれる場所です。本音を言うと最後の一年も荒浜中学校の校舎でみんなと過ごしたかったです。あの校舎、みんなと笑い生活した教室、この体育館よりも少し小さな体育館。つらくても毎日部活にはげんだ校庭。すべてがいつまでも僕の頭から消えないで鮮明に残っています。

そんな大切なものをすべて奪っていった震災から明日でもう一年が経ちます。この一年はあっという間でした。何も分からないまま始まった学校生活。今までと違う環境での生活にとまどってばかりでした。最初はほとんどの人が荒浜中学校には残らないと思っていましたが、再びみんな集まりこうして最後まで一緒にいられたことをすごく嬉しく思っています。この一年間の生活はとともきゅうくつで、前みたいに思い通りいきませんでした。でも悪いことはばかりではありませんでした。たくさんの人との新しい出会いの中で優しさというのを感じました。いろんな人からの支援、支えの中で僕たちは生活することができました。同じ中学生の人達からも募金などをいただいて自分も頑張らなければいけないと思いました。

ある先生がこんなことを言っていました。

「被災していない人は被災した人の気持ちが分からない。でも被災した人も被災していない人の気持ちが分からない。」

よく「頑張れ！」というメッセージをもらいます。頑張れというのはいい言葉のはずなのに「もう十分頑張っているのに」と思いあまり嬉しく感じられない時があります。でももし自分たちが逆の立場だったらどうでしょうか。何も分からない状況で相手に声をかけるとしたら、僕はきっと「頑張れ」が真っ先に出てくると思います。だからお互いの気持ちを理解し合い、共に歩んでいくことが復興につながると僕は思います。

震災からよく「絆」「感謝」という言葉を耳にします。では絆とは何でしょうか。絆とは人とのつながりの中で生まれる目に見えないものです。人とのつながりの中で生まれる絆は一生消えません。どんなに離れていても常に絆でつながっています。僕はみんなとの絆を大事にしていきたいです。

では「感謝」とは何でしょうか。この一年はいろんな日地に支援していただいたのでもう感謝しています。それをどう伝えるか。ありがとうなどと言葉で表すのも一つです。でも僕は、これから大人になり、社会に出て一生懸命生きていくことが一番の感謝だと思えます。

震災を通して僕は一人では何もできないことを学びました。それと同時に自分は一人ではないということを感じました。気付けばいつも仲間、先生、家族、地域の人など、たくさんの人に支えられてきました。だから今度は自分がだれかを支えられるようにしていきます。

僕は本当に3年1組のみんなが大好きです。9年間共に過ごし、どんな時も笑顔が絶えないこのクラスが大好きです。心のどこかでまたいつものように教室に集まり、バカやって楽しくみんなと過ごす日々がくると思っている自分がいます。もうそんな日々が来ないと思うととてもさびしいです。これからはみんなそれぞれの気持ちを抱えて別々の道を歩んでいきます。これから時間が過ぎてつらくて逃げ出したくることがたくさんあったとしても、あの時の思い出、出逢ったあの日から今日まで共に歩んだ日々、そして今日から作り上げていく新しい日々はいつまでも消えません。どんな一歩も無駄にはなりません。だからただ胸を張って歩み続けましょう。

先生方、僕達だけでは絶対にここまで来られませんでした。いつも楽しい日々が送れたのは先生方のおかげです。ありがとうございます。

今日出席していただいたご来賓の皆さま、お忙しい中本当にありがとうございます。いつも僕たちのため、荒浜のため、互理町のためを思ってくれていることをすごく感じられます。感謝しています。

一、二年生のみなさん、これからまだまだつらく大変なことがあると思います。でも、どんな時もクラスの仲間、周りの人への感謝の気持ちを大事にしながらかく楽しく過ごしてください。いっぱいいい思い出を作ってください。応援しています。

保護者の皆さま、いままでたくさんわがままを言い迷惑をかけてきました。本当はすごくつらいのにも僕たちのために支えてくれてありがとうございます。僕たちはこんなに大きくなったので、これからは僕たちが支えていきます。

そして三年生のみなさん、今日の日にはさよならではありません。必ずまた会えます。九年間毎日が楽しく、その一瞬一瞬が僕の一生の宝物です。かけがえのない時間をありがとう。大きくなってまた笑顔でみんなに会える日を楽しみにしています。

以上で卒業の言葉とします。

平成二十四年三月十日 卒業生代表 武田尚人

